

探究する心を育むⅡ ～生き物博物館の実践から～

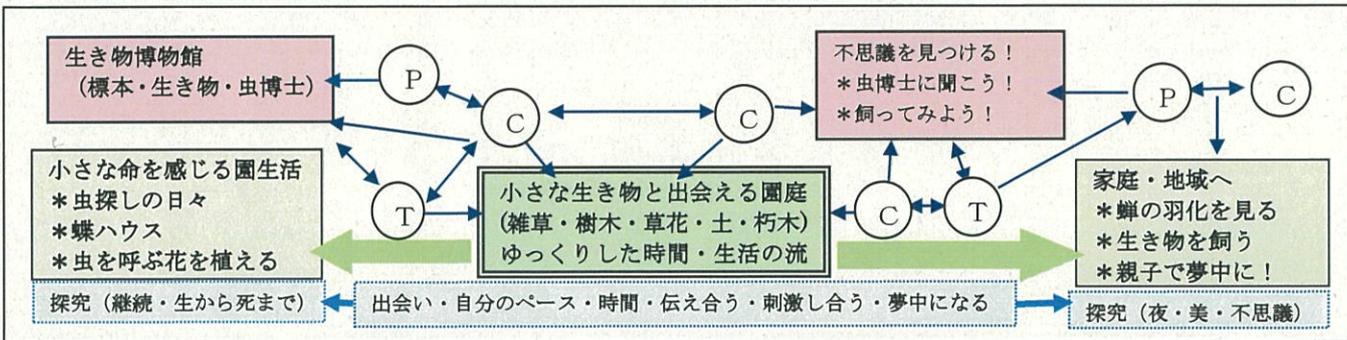
○宮里暁美 石川綾子 伊集院理子 上坂元絵里 川辺尚子 佐藤寛子 高橋陽子 灰谷知子 渡辺満美 (お茶の水女子大学附属幼稚園)

本園では、自分から環境にかかわって遊ぶ営みを大切にしている。「探究する心を育むⅡ」では、身の回りにいる小さな生き物への興味や関心をひろげたり、深めたりしていった実践「生き物博物館」について検討し、探究する心を育むことにつながったと思われる経験や環境、援助について考察する。

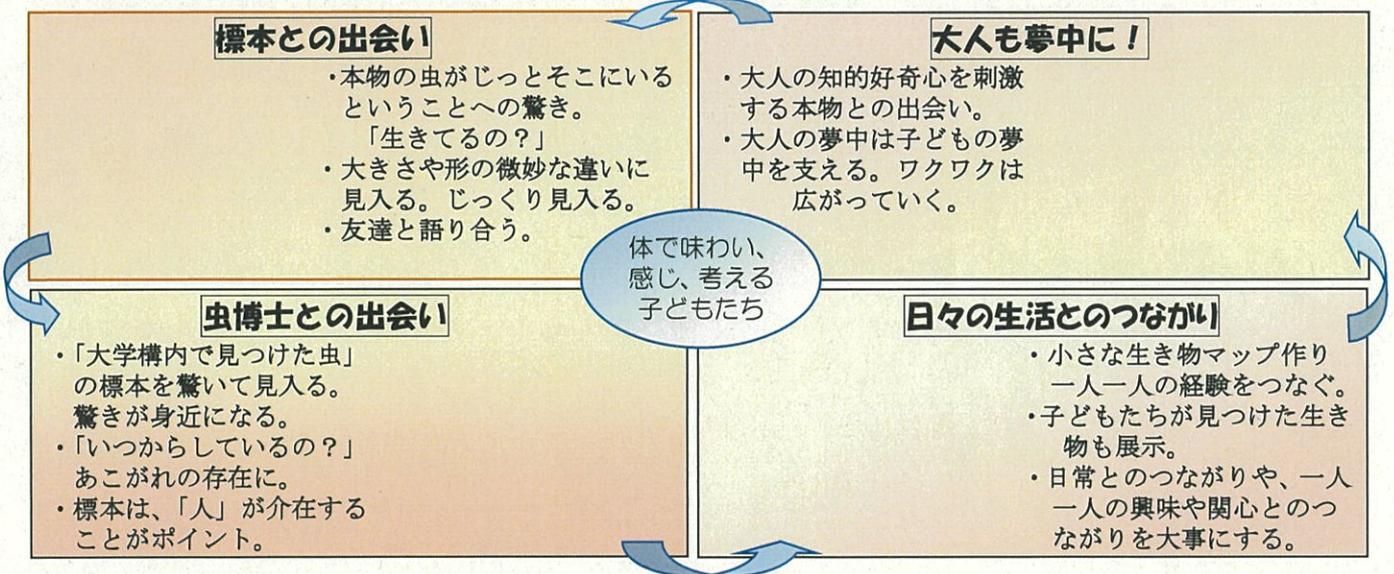
<小さな生き物とかかわる中で体験していること 大切にしたい探究のプロセス>



<日常的に小さな生き物にかかわる園生活と「生き物博物館」の関連>



<「もっと見たい」「もっと知りたい」「面白い」の気持ちがひろがっていく生活>



<「生き物博物館」の足跡 2007年度～2013年度>

第1回虫博物館(2007年)

昆虫標本を中心とした展示を行う。「虫博士」と呼び親しむ人(あこがれの存在)ができる。

第2回虫博物館(2008年)

生きた虫のコーナーが人気。大学内に虫を呼ぶ里山計画との出会い。9月、年長児が「博物館」を創り出す。飼育している虫を展示して、年中児たちに説明する。

第3回生き物博物館(2009年)

カエル好きの子どもたちの要望でカエルが展示され大人気。名称を「生き物博物館」に変更。生餌を食べる様子を録画し視聴するコーナー設置。保育室で「チョウの家」作りが始まる。

第4回生き物博物館(2010年)

近隣の水場での水中生物を捕獲に教員も参加。大きな水槽に入れて見せるコーナーが人気。

第5回生き物博物館(2011年)

保護者向けに虫の飼い方などの話や、セミの羽化の観察会のお知らせなど情報発信を活発に行う。

第6回～第7回生き物博物館(2012～2013年)

より細かく見たいという声があがり実体顕微鏡コーナー設置。セミやカブトムシの羽等を見る。保護者も夢中。